

2019 名医による最先端の眼科治療 第1回 ■永久保存版



いくの眼科 院長 生野 恭司 (いくの やし)

1990年大阪大学医学部卒業。国立大阪病院(現・国立病院機構大阪医療センター)、米国ハーバード大学 Schepens 眼研究所、大阪大学医学部眼科(講師)、金沢大学医学部眼科(非常勤講師/兼任)等を経て、2015年いくの眼科開設。■日本眼科学会眼科専門医、大阪大学招へい教授(兼任)、金沢大学臨床教授(兼任)。



医療法人 恭青会 いくの眼科

網膜硝子体・高度な疾患も日帰り手術で近視診療を二本柱に最先端医療を実践

大阪大学で25年間にわたり網膜硝子体疾患の治療に専念してきた経験から、大病院と同等の高度最先端医療をもっと身近に提供したいと考え、交通至便な大阪・阪急十三駅前が開業したのが『いくの眼科』院長の生野恭司医師。「ひとりでも多くの患者さんの目を治していきたい」という生野院長に話を聞いた。

これからは眼科手術も日帰りの時代に

「最近が高齢の方も多く、眼科でも人工透析中の方や全身疾患をお持ちの方、認知症の方が増えて

います。入院されると、慣れない環境により認知症が進んだり転倒したりします。そうなる患者さんや家族にとっては、退院してからも大変で、できる限り、日帰り環境を変えずに手術を行って

世界トップレベルの手術

医師の技術が特に重要となるのが網膜剥離や糖尿病網膜症、黄斑円孔などの網膜硝子体手術である。網膜硝子体の手術は年間200件以上、総手術件数では1千件(※)を超える。その殆どの手術を最先端の機器と技術を駆使して世界トップレベルの手術を生野院長自ら

一人でおこなっている。また開院当初から、瞬時に把握できる診療情報システムによるスタッフ間の連携とコミュニケーションを含めた質の高いチーム医療を構築したことが、多くの患者を受け入れられるようになった要因である。

強度の近視は失明の原因にも

同院の日帰り手術に並ぶ大きな柱



同等の機器を導入し、眼底検査も視野検査も超音波検査も光学検査もすべて行う。大の広さを含め、設備も充実している。

いくの眼科 https://ikuno-eye.com/

診療◆午前9時-12時(月~土) 午後2時-5時半 (火曜午後、木曜午後は『手術』もを行います)※午後の診察で予約がない方は17時15分に受付を終了します 休診日◆水・土の午後、日・祝 所在地◆大阪市淀川区十三東2丁目9-10 十三駅前医療ビル3階 アクセス◆阪急「十三」駅東出口すぐ(徒歩30秒)、大阪バス「十三駅東口」バス停下車徒歩3分 電話◆06-6309-4930

あさいアイクリニック https://asai-eye.com/

診療◆午前9時半-12時半 午後3時半-6時半 休診日◆水、木・土の午後、日・祝 所在地◆兵庫県尼崎市南武庫之荘1-19-26 サークルFビル3階 アクセス◆阪急神戸線「武庫之荘」駅徒歩1分 電話◆06-6423-8871

いくの眼科 検索

(※) 手術実績 2016年=1,074件、2017年=1,013件。詳細はホームページ参照。https://ikuno-eye.com/surgery/#surgery02

週刊新潮

1月24日号 420円



3